

3 つり荷は振れる！！と思うこと！

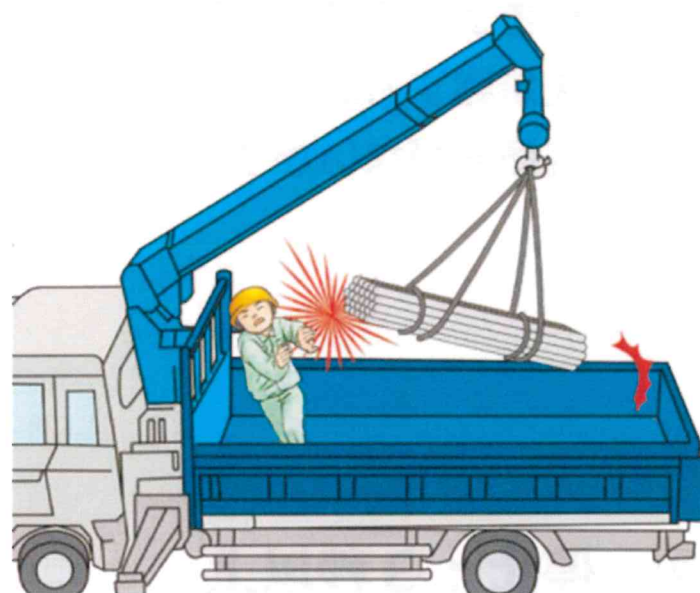
- ◎ つり荷はフックの少しの移動や操作により大きく動きます。風等によっても大きく動く場合があるので注意が必要です。動いてきたつり荷に挟まれることがないように作業位置等に注意すること！

災害発生状況

荷が引っ掛かっているのに気づかず荷をつり上げ、荷が大きく振れてトラックの荷台と荷の間に挟まれた。

守るべきこと

- ① 荷に負荷がかかっていないか、ブームやフックの位置等を常に確認する。
- ② 荷が動いても挟まれないような位置に移動してから巻き上げる。



- ◎ 荷が思いもよらない動きをして起きる災害は多いので、揚重作業は十分に注意する！
- ◎ クレーンの運転操作を誤るかもしれない、合図を誤るかもしれない等、さまざまな要因で荷が動くことを常に考えておく！



【玉掛け作業の安全に係るガイドライン】
平成12年2月24日付け基発第96号
は右のQRコードから確認願います。▶
厚生労働省HPにリンクします



正しいクレーン運転と玉掛け作業で安全確保！

相生労働基準監督署

令和6年に全国で発生した死亡労働災害のうちクレーンや移動式クレーン、玉掛用具等により22名（速報値）の方が亡くなっています。死亡労働災害は、玉掛けていた荷の運搬中に荷が落下、荷に激突され、玉掛用具（繊維ベルト（ベルトスリング等））が切断し作業者に激突すること等により発生しています。

また、相生労働基準監督署管内においても、クレーン等による労働災害により令和5年に1名、令和6年に1名の方が亡くなっています。

このようなことから、死亡労働災害を根絶するためには、クレーン等の安全な運転や正しい玉掛け作業、安全活動を徹底することが重要であり、事業者と労働者が安全意識を向上することで重篤な労働災害を防止することができると考えられます。

つきましては、相生労働基準監督署管内の事業場の皆様におかれましては、工場や現場、出張先でクレーンや移動式クレーン、玉掛け作業等を行う場合は、「玉掛け作業の安全に係るガイドライン」の徹底、「玉掛け作業の3・3・3運動」等を実施していただきますようご協力をお願いします。



令和6年に全国で発生したクレーンや移動式クレーンの運転、玉掛け作業等に関連する死亡災害の概要（抜粋）

起因物 事故の型 業 種	災害発生概要
激突され クレーン 製造業	天井クレーンでベルトスリング4点で玉掛けていた金型を下ろした後玉外しをしたが、1本を外し忘れた状態で天井クレーンのつり上げ操作を行ったため、1本ぶりの状態になり、操作をしていた被災者に金型が激突した。
飛来・落下 玉掛用具 製造業	鋼製タンクにベルトスリング1本を折り重ねて1箇所に玉掛け、天井クレーンで鋼製タンクをつり上げた状態で、次の工程の作業を2から3分行っていったところ、ベルトスリングが切れて鋼製タンクが落下し、近くで作業していた被災者が下敷きになった。
飛来・落下 クレーン 製造業	被災者はH鋼の出荷準備のために天井クレーンを運転していたが、その天井クレーンにつり下げていたつりクランプが積み上げられたH鋼に引っ掛かり、H鋼3本が落下して被災者に激突した。
激突され 移動式クレーン 建設業	道路脇にある照明ポールを交換するために、移動式クレーンを運転してポールの取り付け作業をしていたところ、玉掛けていたベルトスリングが外れ、ポールが落下し、地上にいた被災者が下敷きになった。

「安全衛生教育等推進要綱」に基づいて必要な安全衛生教育や研修を実施していますか

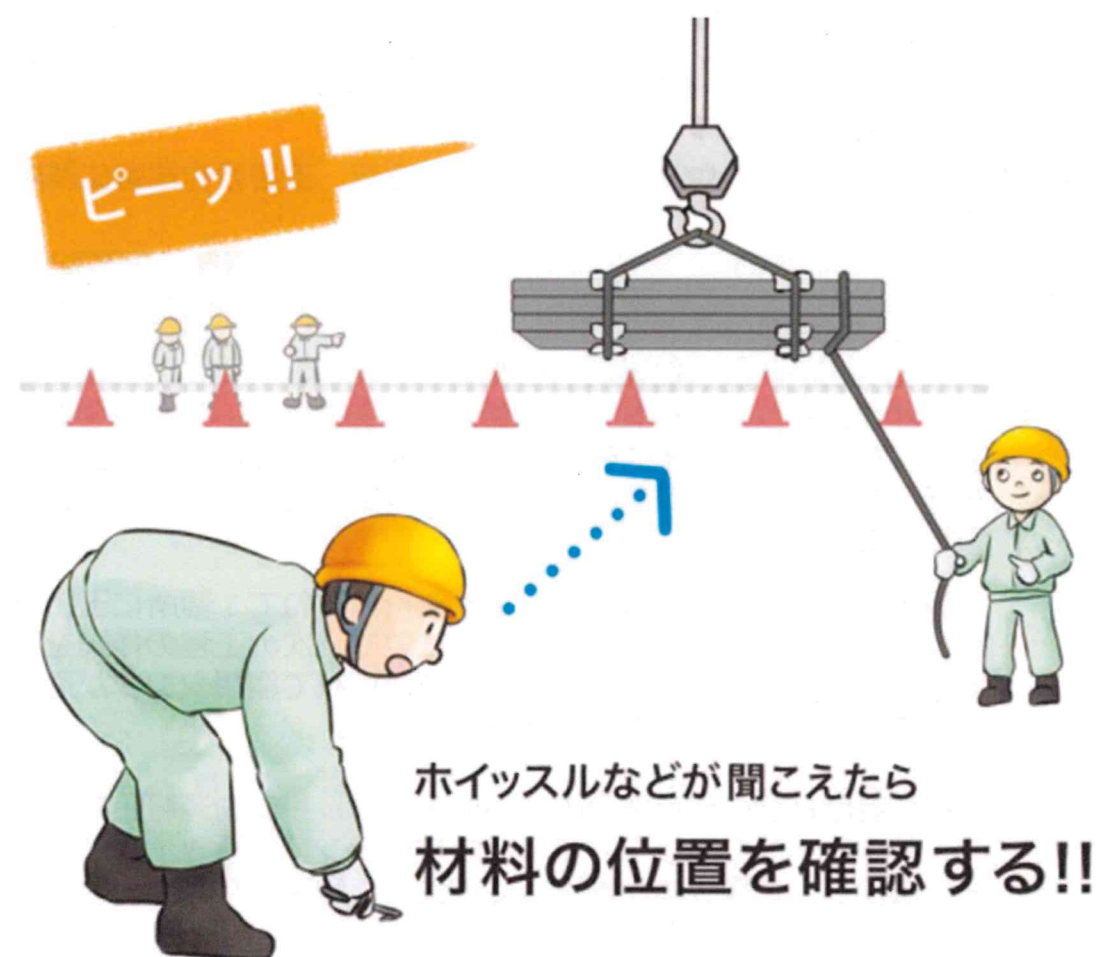
厚生労働省では、労働安全衛生法に基づく雇入時教育、作業内容変更時教育、特別教育、職長教育等、危険有害業務従事者に対する教育、安全衛生業務従事者に対する能力向上教育及び健康教育はもとより、労働災害の防止のために必要な教育等については法定外のものであってもカリキュラム等を定め、企業の自主的な安全衛生活動の促進を図っています。

平成28年10月12日付け基発1012第1号「安全衛生教育及び研修の推進について」の安全衛生教育等の対象者・種類・実施時期及び内容につきましては、QRコード等からご確認いただき、労働者の生涯を通じた効果的な安全衛生教育を実施してください。



1 クレーンによる揚重作業では、絶対につり荷の下に入らない！

- ◎ 声かけ、ホイッスル、サイレン等で、つり荷の下や周辺の人払いを徹底する！



- ◎ 揚重作業での災害は重篤な災害になる場合が多い！
- ◎ つり上げている荷は軽々と移動できるので、感覚が鈍化する！
- ◎ 軽いケガではすまないことを再認識すること！



2 玉掛け作業の3・3・3運動！

- ◎ 玉掛け作業をする際には3・3・3運動を実施すること！

- ① 地切り：30cm
巻き上げて荷のバランスを確認する。
(傾きがないか?)



- ② 停止：3秒以上
荷姿を確認する。
(荷崩れしないか?)



- ③ 荷から離れる：3m
介錯ロープを持って荷から3m離れる。
(荷と玉掛用具の再確認)

